

四日市市諏訪町1-5  
四日市市教育委員会  
社会教育課内  
059-354-8238  
印刷 阿竹印刷工業株式会社

四日市市PTA連絡協議会  
発行責任者 岸田 諭祀

# 市P連ニュース

四日市市PTA連絡協議会事務局  
会員のみなさまの声をお待ちしております。  
TEL 354-8238 FAX 354-8308

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5  
四日市市教育委員会 社会教育課内  
事務担当: 宮本 華代  
連絡時間: 月・火・木・金 9時~15時

## 会長あいさつ

四日市市PTA連絡協議会 会長 岸田 諭祀



年度末にあたり、育児、家事、仕事、PTAを含めた地域活動等にお忙しいなか、日頃から四日市市PTA連絡協議会の活動に御協力いただき、心より感謝申し上げます。

最近「イクボス」という言葉を耳にします。イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフの仕事・私生活・社会活動のバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら組織の業績も結果を出し、自らも人生を笑顔で楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。手腕も問われませんが、働き方改革・生き方改革をするという意識が大事であり、部下のライフ情報を話してもらえらる範囲で把握し考慮に入れて仕事を頼む等、小さな実行の積み重ねが大切と言われています。

りくりが大変という会員も増えていきます。子どもの社会で時間空間・仲間の3つの「間」が不足していると言われていますが、大人の社会でも同じです。自分の上司、家族や周囲の上司と、身近な所から少しでもイクボスを知り、その生き方を意識することでバランスよく時間を過ごすことが、PTAを含めた地域活動に参加すれば、同じ街という空間で家族ぐるみで笑顔でふれあう仲間が増え、住みよい街になると思います。もちろんPTA側としては、役員や会員に過度の負担を求めない運営が求められるのは、いうまでもありません。親が子どもにも出来る最大のプレゼントは、物をあげる事でも、お金を残す事でもありません。時間をかける事です。誰にでも出来ませんが、考えようによつてはとて難しいプレゼントです。大人の都合を片づける時間は効率的にすませ、自分にゆとりを持ち、子どもとの時間をゆつたりと過ごすこと、子ども達を急かさず付き合ひ、家族や地域の笑顔につなげることが、素敵なプレゼントになると思います。

昨年参加した日本PTA研究大会仙台大会第一分科会の講演で、元祖イクボスといわれる、NPO法人コチカラ・ニッポン代表の川島高之さんから、「PTA活動に参加することには、(1)知人・友人が増える。(2)視野が広がる。(3)居場所が増える。(4)仕事力がUPする。(5)先生と親交が深まる。(6)学校教育に少しは参画できる。(7)学校に行ける。(8)子どもとの距離が縮まる。(9)子育ての幅が広がる。(10)大々リットがある。」と聞きました。どうでしょう。PTA活動でなく、子どもと関わる活動と置き換えても思い当たる内容ではないでしょうか。私はこれを頭の片隅に置きながら、PTA活動を含めた子ども達との時間を過ごしていきたいと思えます。

平成29年5月28日(日)四日市勤労者・市民交流センターにて四日市市PTA連絡協議会の講演会が行われました。



## PTA講演会 子は育ち親も育つ 楽しまなくつちやもつたない

講師 高野 優さん

講演会には、育児漫画家エッセイストの高野優さんにお越しいただきました。高野さんは絵本作家でもあり、二姉妹の母。マンガを描きながら話をすると、最後になりましたが、皆様の「お子様、地域の子ども達PTAの仲間たちと、よりよき時間を過ごしていただくことを祈念して、結びの言葉とさせていただきます。」

講演は3人の娘さんの話を中心とした子育てについてのお話でした。長女が小学四年生の頃、口から出る言葉といえは「ウザイキモイムリヤバイ」この4

つのうちどれか一つ。絶妙なタイミングで返ってきた。高校生になると「フロ・メシ・カネ」大学生になると「カネ」しか言わなくなる。とママ友に教えてもらったそうです。思春期になると165cmのハリネズミがとにかく音を出すようになり、思春期の子どもは出さず音はダンスと言う名前が付いていて、「私の事をもっと見て」「私に感心を持って」「私と喋って」と言う事だど教えてもらいました。思春期・反抗期は、本人が番ツライ時期で、娘と同じ土俵で張り合っ守ってはいけない。自分は子供を見守っていたつもりだったが、見守ると見張るは違うんだ。と気付いたそうです。

三女は頭の中がサッカーボールで、小学校の時サッカーチームに見学に行き、とても強豪なサッカーチームに入りました。子育てで大事にしている事は、子供が右肩上がりじゃない時やバツとしない時が親の出番だということ。1つカードを持って子供からのヘルプが出た時にカードを出す。強くなくてもいい「自分が好き、大好き」を持っている強い心のある子はブレない。子供自身が見つけられる事が一番いい事だそう。

次女のりハビリの話で1才児良かったかもしれない。このお話にはとても共感しました。今子育てが大変で自分の時間がないお母さんたちは、「1人になつたらあれやってこれもやりたい」「自分の時間が欲しい」「そう思う事があります。高野さんは「ずっと1人で映画を観たかったけれど、1人で観ても虚しい。」とおっしゃっていました。次女は今春短大生になり、保育科に入学しました。反抗期なしでも素直でした。子供の反抗期に気づかないのが平和だと思っていました。中2の時、思春期と反抗期が一緒に来たそうです。

## 小中学校委員会合同講演会 親子関係が変わる整理収納セミナー

講師 須藤 有紀さん



平成29年11月25日(土)四日市文化会館第三ホールにて、小学校・中学校委員会合同での講演会を開催しました。

講師には、三重県内を中心に家族の気持ちに寄りそう整理収納の大切さを伝えているスマイルホームの整理収納教育士、須藤有紀さんにお越しいただきました。

「皆さんは、お子さんと部屋をキレイにしようと思った時、トラブルになった経験はありませんか?」という問いかけに会場では、うなずく姿が見えました。物をため込む事をなくすために家族それぞれが自分の「想出BOX」を持ち、入りきらなくなつたらどうするのかを見直すようにすると、子どもも自分の物の管理がしやすくなつて自動的に片付けができるようになるそうです。

「整理収納は情操教育のひとつ」という言葉に物事への向き合い方や先を見通す力など、子どもたちが心ゆたかに成長するための大事な部分があるのだと感じられる講演でした。

平成30年2月3日(土)四日市勤労者・市民交流センターにて人権学習会が開催されました。



## 人権学習会 安心して生きられる子どもを守るために 虐待・いじめ問題への対応

講師 幸島 美智子さん

講師の幸島美智子さんは元警察官として勤務された経験から、青少年の非行等(被害)の概要や問題行動調査結果をわかりやすく説明いただきました。

講演の中で幸島さんは、安心して生きられる子どもを守るためには、①自立(自律)させ常識ある大人に育て上げ、社会に送り出す。②本物の「生きる力」を身に付けさせる。③「卑

現状を見ると、安心して生きられない子どもがこんなに多いのかとショックを受けました。またスマホの利用実態やトラブル、依存症の実態についても話されました。もはや持たないという選択肢は難しい世の中であるため、ルールをしっかりと作って常に見直すこと何より親がスマホから離れる時間を持ち家族との会話を持つ時間を作ることに大切ということ聞いた時には自分自身を振り返り反省しなければと思いました。

講演の中で幸島さんは、安心して生きられる子どもを守るために私たちが親がどうすべきか考え行動したいと思えました。

広報紙コンクール  
平成30年2月25日(日)四日市市総合会館に於いて平成29年度四日市PTA連絡協議会広報紙コンクール表彰式が開催されました。ここに厳正なる審査の結果、入賞校のご報告をいたします。

- 最優秀賞 小山田小学校
- 中野ホームニュース賞 中央小学校
- 優秀賞 大矢知興譲小学校
- 入選 大谷台小学校
- 表紙部門賞 富洲原中学校
- レイアウト部門賞 八郷西小学校
- 表紙部門賞 海蔵小学校
- レイアウト部門賞 桜小学校
- 表紙部門賞 県小学校・南中学校
- レイアウト部門賞 羽津小学校・朝明中学校
- 表紙部門賞 川島小学校・西朝明中学校

検査の時に、ズリバイしか出来なかったのに、リハビリセンターに行くといふ筋肉が発達してない」と言われリハビリに通う事になり、その時も誰かに頼っても良かった、甘えでも良かった、助けてと言つても良かったと思つたそう。次女は発達障害だけれど、この子が家に生まれてくれた事が意味のあるのだと思ひ、「暗いトンネルはいつかあける」「子どもは輝いている」「当たり前はない」「生きてそばに居る事に感謝しよう」と思えたそうです。

総務委員会

総務委員会は各ブロック長(単P会長)と教職員代表の先生とで構成されたメンバーで、主に常任委員会(会長)の司会進行、ブロック会や人権学習会などの運営に携わってきました。

メンバーは個性豊かな方々でしたが、子どもたちへの熱い想いのもと、現在抱えているいろいろな課題やこれからの運営についての意見交換・方向性の検討などを行い、積極的に取り組むことができました。

来年度も継続し、より良い活動ができることを望んでいます。一年間ありがとうございました。

谷村 陽平 (委員長・三浦中P)

稲葉 千景 (副委員長・常磐小P)

西尾 雅紀(朝明中P)

伊藤布孔美(西朝明中P)

中島 修平(橋北中P)

平井 真人(塩浜小P)

平山 正樹(小山田小P)

川上 太郎(桜中P)

原 雅樹(港中T)

岸田 諭記 (市P連会長・中部西小P)



小学校委員会・中学校委員会

小学校委員会・中学校委員会では、生活の中での片付けを通して親子のコミュニケーションを軸に子どもとの時間を大切にしながら家族が笑って過ごせる空間作りを...と小学校・中学校委員会合同で企画をし、準備に取り組んでまいりました。

平成29年11月25日(四)四日市文化会館・第3ホールにおいて、整理収納教育士の須藤有紀さんをお迎えし、講演会を開催する

ことが出来ました。今後もより良い活動を行っていきけるよう工夫していきたいと思っております。

小学校委員・中学校委員の皆さんの温かいご協力に、心より感謝いたします。

一年間本当にありがとうございました。

宮越 祥代 (委員長・高花平小P)

鈴木 俊史 (副委員長・河原田小P)

岸野 雅哉(富洲原小P)

豊田 祐二(海蔵小P)

伊藤 裕子(常盤西小P)

堤 洋子(常盤西小P)

江川卓三郎(神前小P)

竹川 昌俊(富洲原小T)

古川 優喜 (中学校委員)

生川 勝信 (委員長・山手中P)

清水 誠司(富田中P)

館 頼子(山手中P)

坂下 聡宏(笹川中P)

鈴木 利枝(三重平中P)

服部 良(内部中T)



幼稚園委員会

幼稚園委員会は委員長と各ブロックの幼稚園委員、教職員代表の計七名で活動しています。年六回の委員会は各委員の

幼稚園の一室をお借りして行いました。10月12日(木)に市内の幼稚園・こども園の代表の方々に参加して頂き、交流会を開催し、各園の取組等の情報交換をしました。来年度の取り組みの参考にして頂ければ幸いです。一年間、笑いっぱい楽しく活動していただきました。ありがとうございました。

井上 綾子(委員長・桜小P)

馬野 美保(羽津幼P)

永田 陽子(橋北幼P)

野堀紗規子(三重北小T)



広報委員会

広報委員会の主な活動はこの市P連ニュースの発行と広報紙コンクルの開催です。コンクルには今年度もたくさんのご応募ありがとうございました。各学校の個性があり、子供たちへの思いがいっぱい詰まった魅力的な広報紙ばかりでした。

また、初めて広報紙の作成に携わられる方・よりよい広報紙づくりを目指す方々のお力になれるよう5月に広報紙づくり研修会を開催しています。一年間、皆さんのご協力のおかげで楽しく活動できましたこと心から感謝いたします。

伊藤紅己子 (委員長・富洲原中P)

太田 千景 (副委員長・海蔵小P)

藤井 千晴(富田小P)

佐藤かおり(羽津小P)

阿部志津江(浜田小P)

田中美喜子(内部小P)

川井奈穂子(三重西小P)

高橋 典子(羽津北小T)

顧問



市P連顧問として子どもたちの育成と健全な成長のために、学校・園と保護者をつなぐ架け橋として、温かいご助言・ご指導をいただきました。一年間、本当にありがとうございました。

佐藤 孝之(保々中学校長)

南出かおり(中央小学校長)

水谷 有子(高花平幼稚園長)



三泗地区 県立高校展

平成29年11月18日(土)総合会館にて第一回三泗地区県立高校展を開催しました。

四日市内からは保護者210名、中学生137名、小学生38名の計385名、三重郡と合わせて合計517名の参加をいただきました。

足元の悪い中とても多くの方々にお越しいただき盛大に行うことが出来た事、心から感謝致します。

第一回ということで改善点等もたくさんありますが、来年度以降、より良い形で開催できるように検討していきたく考えております。

伊藤紅己子 (委員長・富洲原中P)

太田 千景 (副委員長・海蔵小P)

藤井 千晴(富田小P)

佐藤かおり(羽津小P)

阿部志津江(浜田小P)

田中美喜子(内部小P)

川井奈穂子(三重西小P)

平成29年7月15日(日) 第2回常任委員会において、葛西教育長にお越しいただき講話して頂きました。四日市全体の教育など貴重なお話が聞けた事が大変良かったと思います。

教育長講話

幼稚園交流会

平成29年10月12日(木)四日市文化会館第4ホールにて、幼稚園・こども園の23園の代表の方々にお集まり頂き交流会を開催しました。

交流会では「運動会のPTA競技と参加方法」「園自慢」をテーマに5グループに分かれて話し合いました。各園「運動会」ではPTAの呼びかけ・景品を工夫されている事、「園自慢」では地域の皆様の協力を得て楽しんで取り組まれている事がわかりました。

今後園生活に役立ててもらえる様な交流会を開催していきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

養成講座を受けたことをきっかけに、会社を辞めてプロのクラウンに転身。抜群の運動神経と大きな体を活かした大技が得意というところで、その場にある物を頭の上に乗せようというパフォー

マンスを観客を惹きつけます。病院を訪問し、闘病中の子どもたちに笑顔を使える「ホスピタル・クラウン」の活動を、日本を中心に海外でも行なっており、被災地でのパフォーマンスも積極的に取り組んでいます。

新聞・雑誌・テレビでも数多く取り上げられ、「笑いは職場環境を変える」などの講演会を年間



家庭の目標講演会 大人が笑えば子どもは笑う

講師 大棟 耕介さん



平成29年11月18日(土)四日市文化会館において、日本ホスピタル・クラウン協会理事の大棟耕介さんの家庭の日講演会が開催されました。

大棟さんはクラウン(道化師)の会社「プレジャーB」の代表であり、総勢40名のクラウンチーム「プレジャーB」の創立者でもあります。

養成講座を受けたことをきっかけに、会社を辞めてプロのクラウンに転身。抜群の運動神経と大きな体を活かした大技が得意というところで、その場にある物を頭の上に乗せようというパフォー

マンスを観客を惹きつけます。病院を訪問し、闘病中の子どもたちに笑顔を使える「ホスピタル・クラウン」の活動を、日本を中心に海外でも行なっており、被災地でのパフォーマンスも積極的に取り組んでいます。

新聞・雑誌・テレビでも数多く取り上げられ、「笑いは職場環境を変える」などの講演会を年間

200本ほど行っているというそうです。まず講演会に先立ち、皿回し・ジャグリング・バルーン・椅子を頭の上に乗せる等々、様々なパフォーマンスを披露してくださいました。パフォーマンスが始まると会場が一瞬にして大棟さんに惹きつけられていました。驚きあり笑いありのとても楽しい時間でした。

その後、テレビに出演された際のDVDを拝見しました。訪れた病院で子どもたちが本心から笑っているのが印象的でした。でも、大棟さんはこうおっしゃっていました。最初は笑って

くれない子もいた。病院の子どもたちはお母さんが笑っている

と自然と笑顔になつてくる。だからまずはお母さんを笑わせよう

と。自分たちホスピタル・クラウンは決して病気を治そうと考えることではない。少しの勇気を与えているだけだ。

そして講演が始まりました。筆記が追いつかない程、次々と素晴らしいお話をお伺いできました。人との出会いは一期一会。お互いの貴重な時間をこの場に

に捧げる。だから僕は一生懸命話します。本当に一生懸命話してくださいました。

パフォーマンスとは空気を変える事、あるいは空気を埋めること。クラウンとは隙間を埋める名脇役とおっしゃっていました。

大げさなリアクションとへりくだりで状況をひっくり返すこと、観客を前のめりにさせること。ホスピタル・クラウンとしての病院でのパフォーマンスでも、空気が変わり子どもたちの口数が増え、子どもたちは声が大きくなり、前のめりになるそうです。笑いは場の空気を変えるだけでなく、病気の子どもたちをも変えていっていると思います。

最後に大棟さんは、思いは伝わらないけど思いやりは伝わる。人間はおもしろいと笑うものだけど、笑ってあげればだんだんおもしろくなってくる。意図的に笑うことも大切なんだと。そして、笑顔は伝播するとおっしゃっていました。



編集後記

たくさんの方々のご協力のもと、無事に29年度の市P連ニュースを発行することができました。この一年間広報部の活動を通して、様々なイベントに参加させていただきました。どのイベントも楽しいものばかりで、充実した時間を過ごすことができました。その中でも特に印象的だったことは、漫画家の高野優さんとの出会いです。講演会でお話を聞かせていただき、笑いあり涙ありの本心に染み入る時間となりました。その後、間近で拝見する機会もあり、写真も撮らせていただきました。これも、広報部の特権ですね。PTA活動を通して、とても有意義な一年になったことを実感しています。最後に、この紙面を作成するにあたり、たくさんの方々に協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。